

1	第15回札響くらぶサロン
2~3	演奏会を楽し聴くために
4~5	楽員さんに興味津津
6	9月定期を聴いて 招待中学生の手紙 留学生招待の報告
7	石川さん大平さんデュオ
8	随想 本棚の隅から17 リサイタル紹介 スタッフの活動報告



TAKETSU MEMORIAL SALON

豊平館で奏でられたオーボエ

第15回札響くらぶサロン

楽しいお話と美しい音色に夢中です

第15回札響くらぶサロンが9月11日(日)改装間もない、

重要文化財「豊平館」で開催されました。

痛快、軽妙なプレトーク

明治の雰囲気
 が漂う「豊平館」
 大広間に、前回
 までの人数をは
 るかに超える73
 名とうれいしい悲
 鳴です！
 第1部は札響
 くらぶ顧問の八
 木さんによる定期後半のプレト
 ークです。特に11月定期のワグナー
 「ニーベルングの指環 より「ワ
 ルキューレの騎行」と「ジークフリ
 ートの葬送行進曲」このオペラは、
 初心者の方にとつて「？」でした。
 その疑問にマイプロジェクトを使
 い、ヴォータンから始まる家系図
 を表示しながら解説していただき
 ました。なるほど、こんな感じの何
 でもありの物語だったのだと、わた
 し的には少し理解ができました。
 ワグナーに時間を取られ、「9
 月のレーガーはモーツァルトと似
 ていますのでぜひ会場で聞いて感
 じて下さい」と八木さん。本当にい
 つも痛快、軽妙に解説して下さいま
 す。

アリアは沁みる…

第2部は札響オーボエ首席の関
 美矢子さんによるミニコンサート。
 奏者の要望で、軽く飲みながらの始



オーボエ首席 関美矢子さん

次回のご案内

第16回札響くらぶサロンを、12月18日(日)
 午後6時より「豊平館」にて開催します。
 札響くらぶの12月恒例クリスマスパーティーも
 同時に開催します。

にも参加していただき懇親会を開
 きました。関さんファンの方がたく
 さんで大変盛り上がり、時間も延長
 して終了しました。
 初秋の夜に、豊平館大広間で奏で
 られた軽やかな音色は、参加された
 73名の心を満たしたのではないで
 しょうか。
 参加された皆さん、後片付けにご
 協力いただきましてありがとうございます
 ございました。 担当/神

大広間で八木先生と乾杯



すっかり満たされました

第3部はミニコンサートで演奏
 を終えたばかりの関さん、池田さん

まりです。まずオーボエの解説。大
 変なのはリード作りだそうで、薄く
 て、気温、湿度に敏感。そして「息
 の調整が大事です」とお話の後、ピ
 アノ伴奏者池田茜さんと音を合わ
 せて曲に入るその瞬間に表情がガ
 ラツと変わりプロの顔に。J.S.B.
 バッハの「オーボエ・ダモレ協奏
 曲」BWV1055より第1楽章、
 シューマンの「3つのロマンス」作
 品94、息遣いが大変と聞いたの
 で、腹式呼吸が気になりました。
 中間に池田さん独奏によるショ
 パンの「幻想即興曲」。

当日は9・11、今年の日本各地の

11月〜2月の定期・名曲・第9の演奏会

演奏会を楽しく聴くために

八木 幸三（札幌くらぶ顧問）

第595回定期演奏会

11月25日(金)19:00
11月26日(土)14:00
コンサートホール大ホール
指揮 飯守泰次郎
ピアノ ニコライ・ホジャイノフ



飯守泰次郎 ©武藤章



ニコライ・ホジャイノフ

ベートーヴェン

ピアノ協奏曲第5番「皇帝」

この曲が、作曲されたころナポレオンの軍隊がウィーンに迫っていた。しかし、ベートーヴェンは作曲を続け、1809年に曲は完成される。題名「皇帝」はナポレオンを意味するものではもちろんなく、作曲

者自身がつけたものでもない。ナポレオンのフランス軍兵士が、この曲を聴き「皇帝だ、皇帝万歳」と叫んだという逸話も事実反しているようだ。しかし、この曲は、冒頭にいきなり独奏ピアノがカデンツァ風に弾きまくる豪快な第1楽章、優美な主題を持つ第2楽章、そして強烈なエネルギーがほとばしる第3楽章と題名どおりの風格に満ちた傑作であることは万人の認めるところであろう。

ワーグナー

「ニーベルングの指環」より

「ラインの黄金」「ワルキューレ」「ジークフリート」「神々の黄昏」の4つの楽劇からなる「ニーベルングの指環」は、ワーグナーの最高傑作と言うよりは、まさにオペラ芸術の最大にして最高峰の作品と言えらる。ワーグナー自ら構想・台本を書き、約30年の作曲期間を費やし、この作品を上演するために建設されたバイロイト祝祭劇場で作曲者の演出によって全作品が初演されている。元々、後の「神々の黄昏」になる「ジークフリートの死」という

な「若きジークフリート」の台本を完成させる。しかし、この大規模な神話を理解されるためには、その前段にある「ワルキューレ」、さらにさかのぼる「ラインの黄金」が不可欠と考え、構想がどんどん膨らんでいった。

札幌の第9演奏会

12月10日(土)14:00
12月11日(日)14:00
コンサートホール大ホール

指揮 秋山和慶
ヴァイオリン 田島高宏

独唱 川島幸子(ソプラノ)
坂本 朱(メゾソプラノ)

福井 敬(テノール)
山下浩司(バリトン)
札幌合唱団ほか
合唱指揮 長内 勲



秋山和慶



田島高宏

ヴァイヴァルディ

「四季」より 春・冬

ヴァイヴァルディ「和声と創意の試み」第1集「四季」から、「春」の第1楽章が中学校の教科書では、すっかりお馴染みになっているが、今回は「春」と「冬」を札幌コンサートマスター田島高宏の独奏を交え演奏される。楽曲の柱となる全員合奏による旋律部分(リトルネッロ部)と独奏、または少人数で演奏されるエピソード部が交互に現れるリトルネッロ形式によってつくられ、ソ



川島幸子



坂本 朱 ©武藤章

ネット(詩)の情景が音楽により見事に描かれている。

ベートーヴェン

交響曲第9番「合唱付き」

1824年、作曲家自身の指揮による初演では、満席の聴衆が熱狂的にこの作品を受け入れた。しかし、再演の時には聴衆は会場の半分にも満たなかったと言う。その後、十一年以上の間、この曲はドイツ系フランス人の指揮者フランソワ・アン・トアヌ・アブネックが、作品の真価を示した演奏をおこなうまで、楽聖の謎の名曲として人々からは敬遠されていたのである。その原因のひとつが、この曲の最も特徴的なことである交響曲に声楽を入れたこと。ベートーヴェンは、この曲が完成する二十年も前からシラーの詩に旋



福井 敬



山下浩司

第596回定期演奏会

1月27日(金)19:00
1月28日(土)14:00
札幌コンサートホール大ホール

指揮 マックス・ボンマー
フルート 高橋聖純
チェンバロ 辰巳美納子
(札幌首席奏者)



マックス・ボンマー © 藤井康生

楽曲が多くふくまれているのが特徴だ。この曲は、バッハが指揮をしていたコレギウム・ムジカムという演奏団体のためにつくられ、毎週コーヒー店のホールや庭を使い、一般市民を対象に演奏されていた。教会での荘厳な音楽を作曲していたバッハとは違う顔が、そこにはあったのだろう。



高橋聖純

■J.S.バッハ

管弦楽組曲(全曲)

管弦楽組曲は、交響曲と違い序曲と舞曲が組み合わさったもので、バロック時代は組曲そのものが「序曲」というタイトルで呼ばれていた。バロック組曲における舞曲は、アルマンド、クワランツ、サラバンド、ジークを基本としていたが、J.S.バッハの管弦楽組曲では、メヌエットやガボットと言った当時の流行舞曲が多く取り入れられ、さらにエア、バディネリなど、舞曲以外の

イノ(合奏協奏曲の独奏楽器群)を対比させるコンチェルト・グロッソの様式が特徴である。

森の響(レンドコンサート)

札幌名曲シリーズ

さつぼろ..雪あかりの物語

札幌コンサートホール大ホール

2月4日(土)14:00

指揮 高関健

ピアノ 牛田智大



高関健 © 佐藤雅英



牛田智大 ©Kunio Ushida

■グリーグ

「ペール・ギュント」第1組曲

筆者は劇用の音楽を多く手がけたが、音楽の印象が強すぎると劇を邪魔してしまうため、あくまで物語を効果的に盛り上げる脇役として作曲してきた。空想家 ほら吹き、無節操の野心家が冒険好きの主人公。ペール・ギュントが繰り広げるイ

プセンの詩劇にグリーグが23曲からなる劇音楽を作曲した。劇音楽は自分には向いていないと思っていたグリーグだが、この作品は強く印象に残る旋律に溢れている。この劇音楽を2つの組曲に編作したものが今では多く演奏されているのも、コンサート用として聴いた方が適しているからだろうか。第1組曲の1曲目は、モロッコの朝のすがすがしい気分を見事に表現したフルートの旋律を聴いただけで、物語が想像できてしまうほどの名曲だ。

■ショパン

ピアノ協奏曲第2番

青年ショパンは、立続けて2曲のピアノ協奏曲を作曲したが、出版順が逆になり、この第2番が最初の

作品である。作曲の動機が19歳のショパンらしく熱い思いを抱いた声楽科の生徒グラドコフスカへの思慕であった。その思いは第2楽章の甘美な主題に込められている。彼の純真な思いが伝わる名品なのだが、その後この曲は、グラドコフスカではなく、美貌の才女ポトツカ伯爵夫人に捧げられている。つまり使い回しをした訳だが、音楽に限らず、こういう事に心覚えのある方もおられるのではないか。いずれにしても、第1番同様、ショパン青年期の傑作であることは間違いない。

■シベリウス

交響曲第2番

筆者は、北欧へはスウェーデンまでしか行つたことがなく、フィン

ランドの豊かな自然に触れたことがないのだが、なぜかこの曲を聴くと、その特異な風土的感觉に浸ることが出来る。たぶんフィンランドのイメージが北海道の清澄で冷たい外気と重なるからなのだろうか。それほどに北欧らしい雰囲気を持つた交響曲第2番なのだが、シベリウスはこの曲のほとんどを旅先であるイタリアのラパツォとフィレンツェで書いている。その滞在地は、暖かな太陽の日差しを受けた温暖な保養地だったようだ。しかし、フィナーレのコードが発想のきっかけでつくられたこの作品は、彼の交響曲の中でも北欧の風土を内在させた、最も親しまれている作品となっている。

「荒谷正雄とその時代」に札幌の足跡が

キタラ大ホールのギヤラリーで札幌55周年を記念して、札幌の足跡をたどるパネル展が開かれています。今年は札幌名誉創立指揮者である荒谷正雄さんの没後20年でもあります。札幌音楽院の様子、札幌第1回定期演奏会のパネルや写真、またプログラマやポスターが展示されています。荒谷さんが使っていた譜面台も展示されていました。当時の「札幌市民交響楽団」の熱い思いが伝わってきます。

9月の定期的日から荒谷さんのメモリアルレリーフがかざられています。この日、完成披露の除幕式があり、荒谷さんのご長男雄(たけし)さん、レリーフを作成した彫刻家の小野寺紀子さん、札幌コンサートのマスターなどが参加されたそうです。このレリーフを近くで拝見すると、荒谷さんの音楽への思いが伝わってくるようでした。パネルなどの展示を見ていくと興味深いものがたくさんあって、時間が足りないくらいです。大ホールのコンサートに行くと、始まる前と休憩時に見られます。開催は11月27日までです。(中居)



写真の方は右から

札幌理事 村田正敏さん
彫刻家 小野寺紀子さん
荒谷正雄さんの長男 雄さん

♪ 楽員さんに 興味津津！ ⑩

『ヴァイオリン奏者 岡部 亜希子さんに聞く』

♪ 8歳までは英語がペラペラ!

生まれはワシントンDCです。1歳のとき一度日本に帰ってきて、また4歳から3年間ニューヨークで過ごしました。父がNHKの特派員をしていた関係で、アメリカと日本を行ったり来たりしていたんです。最終的に日本に帰ってきたのは8歳のときでしたけど、そのときは英語がペラペラ、というか英語しか喋っていませんで

ました。ヴァイオリンを始めたのは4歳の時です。父の友人の息子さんがヴァイオリンを弾いているのを見て「これやりたい!」と言ったらいいのです。親に反対されたので、押入れにこもって泣きながら「やるウ!」って言ったらしいのですが、記憶にありません。無理やりやらせてもらった感じですね。

最初は近所の先生に習っていましたが、数か月後にはニューヨークに行くことになってしまいました。ニューヨークでは、父の同僚が、ご自分のお子さんのヴァイオリンの

先生を紹介してくださったのですが、幸運にも帰国してからは、その先生のご主人にそのままレッスンを受けることができました。中学校では部活には入らない、いわゆる帰宅部で、毎週個人レッスに通うという生活でした。

父の転勤などで何度も転居しましたが、その都度すばらしい先生に出会うことができました。温かい心で厳しく熱心に指導してくださった先生たちのお陰で、このように音楽の道に進めたのだと思っ

す。

芸大を出てから1年間はフリーでした。その間、N響のアカデミーに入っていたとき、オケの勉強をしていました。アカデミーでは、N響のリハーサルはいつでも見学できますし、演奏会はずべて無料で聴くことができます。楽員さんに個人レッスンをしてもらったり、時にはエキストラとして、N響にのせていた

だいたりしたこともあります。アカデミーには3年間在籍することができたのですが、ちょうど1

年目が終わる頃に、やっぱりプロのオケに入りたいとの思いが湧き、札幌のオーディションを受け

たんです。振り返ってみるとほぼ思いつきでした。札幌に特に縁があったわけはありません。日本では東京と横浜しか知らなかった

ので、それ以外の日本も見たいという思いもありましたね。北海道には高校の修学旅行と家族旅行、それから大学時代に、トマムで行われた音楽セミナーで来たことがありました。食べ物もおいしいし、自然もいっぱいあって、魅力がありました。

札幌のオーディションでは、まず最初にテープ審査がありました。その段階で何人いて、最終選考に何人残ったのかはわかりませんが、結果的には5人同時に入団したんです。2009年のことです。

心地道よい 札幌の音色

2年前の3月に結婚しました。夫の仕事は全くの別業界で、音楽に関しては素人です。ただ、演奏会を聴きに連れてくれた後は、いつも「きょうもよかったね」と言って純粹に応援してくれます。その言葉を聞くたびに、「こちらも素直に「じゃあ、また練習しようかな」という気持ちになれるんです。

今は1歳になる息子の子育てに追われています。大変ですが子供の笑顔には癒されます。

おかげで、やけに規則正しい生活になったりして、生活にメリハリができたような気がしています。この子を守らなければと思って、なんだか少し自分が強くなったような感じもします。楽員でも最近お母さん

なれるんです。

なれるんです。

ベートーヴェンのソナタの連続演奏を



プロフィール

4歳よりヴァイオリンを始める。2004年第9回コンセール・マロニエ21弦楽部門3位。2005年第7回フォーバルスカラシップ・ストラディヴァリウスコンクール入賞。2006年第19回和歌山音楽コンクール弦楽部門1位。芸大フィルハーモニア、札幌交響楽団と共演。東京芸術大学付属高等学校を経て、東京芸術大学音楽学部卒業。在学中よりNHK交響楽団アカデミーで研修を積む。2009年1月より、札幌交響楽団に入団。これまでに、鷺見健彰、鷺見野富子、澤和樹、若林暢、玉井菜採の各氏に師事。2013年7月、ファーストアルバム「Spring」を発売。

♪ ちょっと強くなった私

今は1歳になる息子の子育てに追われています。大変ですが子供の笑顔には癒されます。おかげで、やけに規則正しい生活になったりして、生活にメリハリができたような気がしています。この子を守らなければと思って、なんだか少し自分が強くなったような感じもします。楽員でも最近お母さん

7歳の頃



美しい短調の調べ

ボンマーのモーツァルトを聴いて

スタンダードの指摘以来もう言い尽くされたことだけれど、モーツァルトの音楽は長調の作品においても、常に哀しい笑みを湛えている。音楽にはずぶの素人の僕も、その心にのめを求めて今日まで生きてきた。モーツァルトの音楽最大の聴きどころである。しかしそれがいざ短調に転じると、その哀しみは深刻さを通り越して、絶望の深淵

まで沈み込む。短調交響曲K550然り、ト短調弦楽五重奏曲K516然り、ハ短調ピアノ協奏曲K491然りである。

今回の札幌定期演奏会のメインは二短調を基調とする「レクイエム」であった。この調性独特の濃い影と淡い光に加え、常連のホルンや高音域を彩るフルートとオーボエの不参加、代わりに低音域に厚みを

重ねるバセット・ホルンとトロンボーンの意識的配置は作曲家最晩年の心境を語るものであるのか。たとえ弟子ジュスマイヤーの筆が入っていたとしても、まぎれもなくモーツァルトの、しかしかなり特殊で思い入れの強い音楽となっているのだ。重く地を這うような響きを想像して会場に足を運んだ。

透明感にあふれ、予想外に明るく柔らかな弦の響き、角の取れたまろやかなソロ・トロンボーンの格調、声楽部分との清涼感に満ちたハーモニー、悉く新鮮であった。作曲家最晩年の光と影が交錯するこの名曲、僕は光の部分が強調されている

ことを今回の演奏から聴き取った。モーツァルトの短調の音楽があんなに穏やかに微笑みかけるとは。かつてK421の弦楽四重奏曲、K466のピアノ協奏曲、そして歌劇「ドン・ジョヴァンニ」を不気味なヴェールで包みこんだ、モーツァルトの二短調にもあのような表情が隠されていたのだ。

音楽会場の一期一会の出会い、思いがけない可能性を求めて僕たちは足を運ぶのかもしれない。それにしても、札幌弦楽セクシヨンのピアノニッシモには益々磨きがかかってきたようである。

会員 村岡範男

中学生からのお礼のお手紙を紹介するコーナー。今回は、札幌市立北栄中学校からの手紙です。感動と興奮が伝わってきます。

▼僕の心に残ったのは、ロビーコンサートと交響曲8番です。僕はホルンをやっているのですが、ロビーの演奏では自分にはホルンがひとさわ輝いているように見えまして！そして指揮者の広上さんから、とっても元気が伝わってきました！



た！これから僕は、あのホルン奏者のように、なめらかで響きわたるような演奏を目指し

すごかったです。また、ステージと席がとても近くて、奏者の表情や構え方など細かいところまで見ることができて、とても良い経験になりました。

▼一人一人の音がすごく響いて

▼こんなに長い時間、弦楽器の音

てレベルアップしたいです。

▼私はロビーコンサートが心に残っています。あんなに近くでプロ方たちの演奏が聴けて、とても感動しました。音がキレイで、ホールじやないのに音が響きわたっていて

きて、聴いている人たちが動きを止めて聴き入ってしまうような、ものすごい演奏でした。指揮者の広上さんは、体全体で指揮をし、演奏者とも息ピッタリで、かつ良かったです。

を聴いたのは初めてでした。ヴァイオリンのソリストが特にすごかったです。指が早く動いていて、しかも音がすくくキレイで素敵でした。金管は出番が来た時の迫力がすごかったです。特にTbの音バリバリで、どうしたらあんな音が出るんだらうと思いました。良い音を聴けて良かったと思います！

札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業 「これからの練習に生かしたい！」

一般財団法人札幌市職員福利厚生会協賛

▼弦楽器の音が心に残りました。

一斉に弾くと、弦が一斉に動いてかたつむりの渦が動いているように見えて、こんなに揃って弾けるなんてすごいと思いました。

▼全体的に歌い方がすくく、聴いていてとても気持ち良かったです。ロビーコンサートでの木管五重奏の各楽器のソロ的な部分も、聴いていて楽しかったです。これから今回聴いた音が出せるくらい練習して、頑張ろうと思いました。良いことをとっても吸収できた時間でした。

担当/佐藤・定政

北大留学生を札幌コンサートにご招待

「札幌もキタラも素晴らしくて楽しめました」

昨年秋に続き今年も6月18日(土)「森の響フレンドコンサート」札幌名曲シリーズ「ワイ・ン・華麗なるヴァイオリンと運命」を10名の留学生の皆さんに楽しんでいただきました。今回も募集開始すぐに定員となり、キャンセル待ちも出るほどの人気でした。国籍は中国、フランス、ドイツ、インドネシア、韓国、モンゴル、ベトナムと地域を問わず各国の留学生の皆さんが札幌演奏会に興味を示してくださいました。演奏会終了後には、札幌事務局の中川さんのご案内でキタラバックヤードツアーも開催。荘厳なパイプオルガンの前では長くたたくみ熱心な質問を投げかけていました。前回同様留学生の皆さんからは札幌の演奏、そしてキタラホールの素晴らしさに多くの賞賛を頂きました。どの方もキタラにも札幌コンサートも今回が初めてだそうです。「これを機会に自分でチケットを購入して聴きたい」との嬉しい言葉もいただきました。

担当/米森



北大留学生の皆さん10人を札幌名曲シリーズにご招待しました。

「曲の素晴らしさを楽しんで聴いてほしい」



札幌首席チェリストの石川さんとピアニストの大平さん(札幌響らぶの会員です!)によるデュオリサイタルが11月4日に開催されます。キララでのお二人のリサイタルはこれで3回目になります。待望のCD第一弾も同時発売!お二人がどこで出会われたのか?CDを作るその経緯は?いろいろお聞きしたくて、お二人の練習の日にちよとお邪魔させていただきました。

4年前に始めたデュオのきっかけは?

大平さん 私はピ

アノのソロリサイタルを予定していたのですが、父が倒れて全く練習ができなくなりました。担当のW氏にキャンセルしたい旨をお伝えしたところ、「やめるのはもったいない。他の方法を考えてみたら?」と言われました。「室内楽はドイツでずっとやっていたし、チェロとならレパートリーがたくさんあります。以前、石川祐支さんの演奏を聴き、いつかこんな方とデュオをしたいな...」と思ったけれど面識がないから...」そうしたら、W氏が「石川さんなら、うちでリサイタルもやっていますし、すぐメールできていますよ。」ということに!



「楽しんでくれれば」と
チェリスト石川祐支さん

音の出し方って色々あって、直接的に音を出す人もいますが、大平さんの方と一緒にできるなんて素晴らしい話だなあと思いました。音の出し方って色々あって、直接的に音を出す人もいますが、大平さんの方と一緒にできるなんて素晴らしい話だなあと思いました。

人の音はそれとは真逆の音で、自分にとって最も魅力的な音だったのが素晴らしいと思いました。大平(この後敬称略) 帰国してドイツと一緒に室内楽をやっていた仲間と別れて寂しく思っていました。石川さんの奏法は弦を押し出す空気の中からスツと音を引き出し、フレージが大きく繋がるのが素晴らしい。初めての合わせの時、細かく練習するつもりが通しちゃって...まったく違和感がなかったんです。感性が合ったのでしょね。

毎回のプログラムの決めかたは?

大平 最初のデュオリサイタルでは、私はブラームスの2番をやりたいと思っただけですが石川さんがどうしても1番を!と...

石川 以前リサイタルで2番をすでに演奏していたので、1番を演奏してみたかったです。それで1番を演奏したのですが、1楽章の途中で弦の異変に気付いてその場を



「感性が合ったのでしょね」と
ピアニスト大平由美子さん

退場して弦を張り替えたんです。その後舞台に戻って演奏したのですが、新品のガット弦だったので音程など定まらず、散々な結果になってしまいました。それで今回リベンジでもう一度演奏します。

CDを出すことになった経緯は? 石川 僕も大平さんもCDがなかったのでぜひやりたかった。大平 ある時、前札幌事務局長の宮澤氏との会話の中で、「昨日キララで初めてベースンドルファアを使ってコンサートして感激でした!」とお話したら「うちの文化ホール(長野県伊那文化会館・宮澤さんに聴いてほしいです。

大平 ベートーヴェンいいなく、ブラームスもいい曲だな、こんな素晴らしい曲があるんだろって思っていただけだから嬉しい。偉大な作曲家の前で自分は何百分の一。真剣に音楽を模索しているうちに演奏者の人間性や伝えたいことは自然に曲の中に滲み出てくるので。

ら最初の曲に良いかも?」(石川)「ベートーヴェン3番、4番はやってきたから今回2番は?」という感じでスツと決まりました。今回のCDの選曲では2人ともブラームスの1,2番はぜひ入れたらという願いがありました。あとはシューマンとドヴォルザークも、バラバラじゃないつながりのあるものを入れたかったです。

石川 初めてCDを出す方たちのは多くは、小品の名曲を入れたりするのですが、僕は大きな曲(ソナタなど)を入れたかったです。一応小品も入っていますが(笑)

大平 お正月に伊那のホールで3日間録音しました。もつといい演奏ができると思うとまた欲が出て、ここはだめと思うとまた何回もやらせていただき...楽しかったですね。素晴らしい経験でした。

両親が高齢で最近演奏会に来にくくなり、家で聴けるものと思

つていました。CD収録のホール確保、ベースンドルファアを使わせていただけたいこと、素晴らしい録音スタッフをご紹介いただいたこと、すべてありがたいお話でした。

聴く私たちに一言をお願いします 石川 とにかく楽しんで聴いていただければ嬉しく思います。難しいことは何も考えずに感じたままに聴いてほしいです。

大平 ベートーヴェンいいなく、ブラームスもいい曲だな、こんな素晴らしい曲があるんだろって思っていただけだから嬉しい。偉大な作曲家の前で自分は何百分の一。真剣に音楽を模索しているうちに演奏者の人間性や伝えたいことは自然に曲の中に滲み出てくるので。

石川 毎回のコンサートに、札幌らぶの方々にもたくさんいらしていただいてありがとうございます。今回もぜひいらしていただけたら嬉しいです。

石川祐支&大平由美子
デュオリサイタル
11月4日(金)7:00PM開演
札幌コンサートホール小ホール
一般3500円 学生2000円

2016年8月28日
担当/定政中居

「2016名古屋 JOFC 参加ツアー」締め切りました

号に添付し、「2016 全国のオーケストラ聴く札幌くらぶツアー企画」及び「2016 JOFC名古屋総会」への参加の案内をさせていただきますました。札幌くらぶから18名の参加予定で、札幌以外の開催では最多の参加者となりました。ありがとうございます。

11月19日の名フェスティバル定期演奏会、交流会、観光ツアー、楽しんでいきます。 担当/西川



青木晃 Ritsuki Aoki
ヴィオラリサイタル
 ピアノ：田島ゆみ
 2016.12/16 Fri
 19:00 開演
 チケット 2,500円

このたび、札幌にて初のリサイタルをさせていただきます。プログラムもヴィオラの魅力が十二分に伝わる名曲ばかりを集めました。学生時代から、自分のデビューリサイタルでは絶対このプログラムを弾きたいと考えていました。音響の素晴らしいキララの小ホールで演奏できるので、ピアニストの田島ゆみさんと共に精魂込めて演奏したいと思いません。皆様、ぜひ聴きにいらしてください。札幌副首席ヴィオラ青木晃

楽員の皆さまへ

楽員の方々のリサイタルや演奏会をこの会報で会員にお知らせしたいと思っています。掲載を希望される楽員の方は札幌くらぶスタッフまでお知らせください。

会報は年に4回、1月、4月、7月、10月に発行しています。掲載の申し込みは会報発行の2か月前までをお願いします。

札幌くらぶの皆さまへ

会報にご意見、ご感想などをお寄せください。

スタッフの活動報告

(平成28年7月~9月)

- 7月25日(月) 会報「札幌くらぶ」第75号発行
- 7月25日(月) 第4回運営会議開催
- 8月22日(月) 第5回運営会議開催
- 8月27日(土) 第592回札幌定期演奏会 「札幌市内中学校吹奏楽部招待 事業」実施 平岡緑中、藻谷中計85名招待
- 9月11日(日) 第15回札幌くらぶサロン開催 73名参加
- 9月26日(月) 第6回運営会議開催

(詳細は札幌くらぶホームページで)

随想 本棚の隅から 17

今年もまた秋が来た。「もう、彼が来るのは最後かもしれないから聴きに行きましようよ」と、ウイールヘルム・ケンプ『日本公演』を聴きに行ったのが1974年の秋だった。

初来日は1936年、私はまだ生まれていなかった。戦後は1954年来日したが、私は子供で、まだ戦後は終わっておらず庶民は豊かでは無かった。

それから度々来日しているのでも聴きに行けると思っていたけれど、そろそろ最後になりそうなので、やっと聴きに行ったのが8回目の来日とき。ケンプも既に79歳、品の良い佇まいは美しかった。老人に見惚れたのははじめてだ。

曲はバッハ(イギリス組曲)とシューベルトとベートーベンのソナタで、「月光」は甘美でうっとりとしたで、聴き惚れる。円熟したピアノに深く感動して、まさに魂を洗われると言う表現が此のためにあるのだとしみじみと思った。遙かな秋の幸せな一夜だった。

それから5年後の春にもう一度、今度こそ最後かもしれないと、1979・4・23(月) ウイールヘルム・ケンプ札幌公演 今回はベートーベン・プログラムそれもソナタ4曲だけその他は無かった。「春宵一刻值千金」ってほんとうだ、何の恐れもなく、平和を享受していたあのころは…

ぼんやりと昔を思い出していたらケンプを置き去りにして、中村紘子さんに思いを馳せていた。彼女の訃報をきいたとき、何故か夫君の福田章二(庄司薫)氏を思い出して彼も、もう居ない。会員/井上明子

小説を引っ張り出してきて読み始めたが、わたしも、あのころは青臭かったなー、しみじみと齢を感じた。

ところで、中村紘子さんのその頃の飼猫がタンクローと言う名前だったのを知っていますか？私的な話ですが、十数年前に離れの住人が犬を飼ってもいいかと言ってきた、「私にも撫でさせてくれるのなら」と承諾した。まだ生まれていないのに、名前を考えてほしいと頼まれて「タンクロー」と付けた。子が産まれたので一緒に見にいって驚いた、真っ黒でコロコロしていて、まさに名前そのもの！人懐こくて、みんなに可愛がられて、大きくなるほどますます名前に相応しくなりました。母の車椅子の横をユサユサ尾を振りながら一緒に歩いていた姿を思い出す。母もタンクローも、もう居ない。会員/井上明子

編集後記

▼8月の定期、関心は音に聞く「幻想の鐘」。声はすれども姿は見えず。しかし音色は噂に違わぬすばらしいものでした。思わず「木槌で打たれたものか、金槌で打たれたものか」尋ねてしまいました。大垣内氏曰く「木槌」。1979年に寄贈されたというこの鐘が初めて使われた第218回定期では、その日の鐘奏者I氏を岩城宏之は指揮台近くまで呼び寄せて拍手を受けさせたそうです。(村山)

▼今号から編集を担当するのは4名、全員新任です。試行錯誤の真っ最中です。ビール片手に口角泡を飛ばして奮闘しております。ご意見、ご感想をお待ちしています。(井上)

▼今年札幌くらぶに加入しスタッフにして頂いた。文字屋は高校時代からのあこがれだった。先日の札幌くらぶサロンで演奏者本人からチケットを購入した。本人からなんて生まれて初めてだ。こんな感動を糧に、札幌を文武両道で応援したいと思っています。(爽々)